

2022年度(上半期)

事業所自己点検チェックリスト【相談支援事業所】※計画相談・障害児相談共通

チェック項目	評価 (1~4を記入)	【記載欄】 ・うまく工夫している点 ・具体的にできていない内容や理由 ・課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標 など
	1. できていない 2. あまりできていない 3. 概ねできている 4. できている	
1 サービス提供方針を明確にしている	18	
① いかなる状況においても利用者の自己決定を尊重することを心がけ、利用者との信頼関係をもとに、利用者の意向やニーズに耳を傾け、本人主体の支援計画及びサービス等利用計画の策定に取り掛かっている。	3	原則的に遵守するが、個々に十分なアセスメント、ニーズ把握を行って策定しているとはいえない
② 利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立った相談支援サービスを提供している。	3	原則的に遵守するが、サービスや事業所事情に左右される場合がある
③ 重要事項、事業内容、支援計画及びサービス等利用計画などの内容について、利用者に対し説明を行い、同意を得ている。	4	
④ 障害者福祉に関する法令、人権、職業倫理、社会保障等、事業の運営に係るすべての関係法令を遵守している。	4	
⑤ 正当な理由なく相談支援サービスの提供を拒まないようにしている。	4	
2 環境・体制整備を行っている	20	
① 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている。	4	
② 相談スペースが適切に設けられ、プライバシーが確保される空間である。	4	
③ 利用者に配慮した日時、場所で面談等を行っている。	4	事前連絡を行い決めている
④ 面談の際には、利用者に配慮した座席などの状況を作っている。	4	
⑤ 環境・体制整備を行っている設備面で不備や損傷があった場合は速やかに事業所に報告し対応を図っている。	4	感染予防アクリル板等活用
3 社会参加・地域連携に取り組んでいる	19	
① 日頃から地域の社会資源に出向くなどして、情報の収集にあたっている。	4	現在の担当者はキャリアも長く情報量も豊富
② 社会資源を活用し、地域における障害者、障害児や保護者のニーズを掘り起こし、対応を図っている。	3	インフォーマルの部分活用が不十分
③ 市町村、他の障害福祉サービス事業、その他の保健医療サービス及び福祉サービス、自立支援協議会などと連携し、ネットワークを作っている。	4	
④ 地域住民、ボランティア団体、当事者団体、地域の児童クラブ、などインフォーマルなさまざまな関係機関・団体と連携し、地域における支援のネットワーク作りに取り組んでいる。	4	現在の担当者はキャリアも長くネットワークが広い
⑤ 地域への相談支援事業の普及に取り組んでいる。	4	
4 職員の支援体制を整えている	15	
① サービス提供に必要な人員、有資格者を配置している。	1	9/1時点で専従常勤者いない。常時求人中
② 事業運営の理念・方針・職員倫理が設定され、職員間で遵守されている。	4	
③ 職員が心身ともに健康で意欲的に支援を提供できるような労働環境を整備している。	2	現在の担当者は兼務者で、業務に集中して時間が割けない
④ 職員の知識・技術の向上のために、研修等の機会を確保している。	4	
⑤ 職員間の意思疎通、支援内容の共有等を行うための時間や機会を日常的に確保している。	4	対面時間の確保は難しいが、LINEワークス活用
5 権利擁護・虐待防止に取り組んでいる	20	
① 職員による利用者への暴言や差別等の不適切行為を防ぐため、職員間で支援を振り返り、意識を高めている。	4	
② 職員による利用者への虐待行為を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている。	4	虐待防止委員会に参加
③ 利用者からの苦情に対する「苦情解決体制」やマニュアルが整備されている。	4	
④ 虐待防止委員会の設置等、職員による虐待・差別行為の防止を徹底している。	4	
⑤ 個人情報の取り扱い、秘密保持を遵守している。	4	
6 緊急時の対応のための備えができています	18	
① 相談支援事業の実施に当たり「緊急時対応マニュアル」が策定されており、対応を行っている。	2	未整備。目標今年度中に素案作成
② 身体拘束について、組織的決定がなされ、利用者に事前に十分に説明し同意を得ている。	4	
③ 事業所の防災マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定して運用している。	4	
④ 事業所の非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている。	4	
⑤ サービスの実施にあたって発生したヒヤリハット事例集を作成し、職員間で共有している。	4	
7 業務改善の仕組みがある	11	
① 全体会議、サービスの会議などで、業務上の課題を職員間で挙げて、共有している。	2	サービス調整会議での共有は不十分
② 業務改善を進めるために、PDCAサイクルに広く職員が参画している。	3	業務上個別の業務が多く、個々でサイクルを意識
③ 利用者の意見や満足度を把握するためのアンケート調査等を実施し、その結果を業務改善につなげている。	1	未実施。今後行うか検討
④ この「自己点検チェックリスト」の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している。	4	
⑤ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている。	1	

8 アセスメントを適切に行っている	14	
① アセスメントを行う際には利用者や家族に趣旨と今後の手順を適切に説明し、丁寧に聞き取りを行っている。	2	個々に差があり、時間が十分に取れているとはいえない。担当者の確保時間も不足
② 利用者の特徴や年齢、状況に合わせたアセスメントツールを使用して、アセスメントを行っている。	2	個々に差があり、時間が十分に取れているとはいえない。担当者の確保時間も不足
③ アセスメントを適切に行い、利用者の心身の状況、障害特性等、生活歴、家族関係など必要な情報を適切に把握し、記録している。	2	個々に差があり、更新が十分にできているとはいえない。担当者の確保時間も不足
④ アセスメントをもとに利用者のニーズや課題を客観的に分析している。	4	
⑤ 利用者や家族以外からも関係する機関、障害福祉サービス事業所、隣人など必要に応じて外部から情報を収集している。	4	隣人などインフォーマルな関係者からの情報は得ていない
9 サービス等利用計画、モニタリング、その他支援計画の作成を適切に行っている	13	
① サービス等利用計画、モニタリングアセスメントは、定められた時期や頻度、あるいは必要な際に適切に作成している。	4	
② アセスメントによって、利用者のニーズや課題を客観的に分析して、サービス等利用計画を作成している。	3	個々に差があり、時間が十分に取れているとはいえない。担当者の確保時間も不足
③ サービス等利用計画作成の際の基本的な視点である「エンパワーメント・アドボカシーの視点」「総合的な生活支援の視点」「連携・チーム支援の視点」「ニーズに基づく支援の視点」「中立・公平性の視点」「生活の質の向上の視点」を理解し、反映した計画書を作成している。	3	
④ 利用者が読みやすく、理解しやすく、伝わりやすい表現を用いて計画書を作成している。	2	事業所のソフトによる書式。漢字の使用には配慮
⑤ サービス等利用計画作成の際の基本的な視点に沿った計画書になっているか、評価表を用いて評価したり、職員間で話しあう機会を持っている。	1	基本担当者で完結
10 受給者証、サービス等利用計画、モニタリング等サービス書類の処理と管理	17	
① 受給者証は所定の時期に利用者より預かり適切に管理している。	3	他サービス任せにならないよう管理が必要
② 作成されたサービス等利用計画、モニタリング等は適切に利用者や家族に説明をして、同意をもらっている。	3	十分な時間は取れていないか、基本面談してやり取り
③ 作成され、同意を得たサービス等利用計画、モニタリング等は必ず利用者や家族にも渡している。	4	
④ 利用者や家族の同意を得たサービス等利用計画、モニタリング等は、速やかに関係する機関、障害福祉サービス事業所に渡している。	3	
⑤ サービス間の職員において、それぞれの作成の書類やデータの保存先を互いに把握し、共有できている。	4	
11 関係機関や利用者との連携を図っている	19	
① 必要な頻度、機会にサービス担当者会議等を開催し、会議等にはその状況に精通した最もふさわしい者が参画している。	4	
② サービス担当者会議等の内容は適切に記録、保管してある。	4	
③ 関係機関との情報共有、連絡調整の時期や頻度は適切に行っている。	4	
④ 関係機関に伝える情報、書類等については速やかに提供している。	4	
⑤ 日頃から利用者の状況を必要に応じて家族と伝え合い、現状や課題について共通理解を持っている。	3	個々に差があり、時間が十分に取れているとはいえない。担当者の確保時間も不足
12 利用者・家族支援を行っている	13	
① 利用者や家族からの悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている。	4	
② 父母の会や当事者の活動を支援したり、利用者や保護者会等を開催する等により、当事者同士の連携を支援している。	1	コロナ後の人の集まり方の検討が必要
③ 利用者や家族からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、それらを利用者・家族に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している。	4	
④ 家族の対応力の向上を図る観点から、家族らに対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている。	1	
⑤ 利用者の地域社会への参加、子供たちなどのインクルージョンを進め、社会参加の機会を支援している。	3	会議等への参加はあるが具体的な取り組みまではいかない

※この「自己点検チェックリスト案」は、平成30年度厚生労働科学研究費補助金「障害者の福祉的就労・日中活動サービスの質の向上のための研究」を通じて作成したツールであり、結果については、一定の目安として、今後の自事業所の取り組みを振り返るにあたって参考にしていただくものです。

チェック項目	評価（合計）
1. サービス提供方針を明確にしている	18
2. 環境・体制整備を行っている	20
3. 社会参加・地域連携に取り組んでいる	19
4. 職員の支援体制を整えている	15
5. 権利擁護・虐待防止に取り組んでいる	20
6. 緊急時対応のための備えができている	18
7. 業務改善の仕組みがある	11
8. アセスメントを適切に行っている	14
9. サービス等利用計画、モニタリング、その他支援計画の作成を適切に行っている	13
10. 受給者証、サービス等利用計画、モニタリング等サービス書類の処理と管理	17
11. 関係機関や利用者との連携を図っている	19
12. 利用者・家族支援を行っている	13
合計	179

